官報　第四千四百七十四號　明治三十一年六月一日　水曜日

# 官報

第四千四百七十四號　明治三十一年六月一日　水曜日

## 内閣官報局

### ○豫算

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル明治三十一年度歳入歳出總豫算追加ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

### 御名御璽

明治三十一年五月三十一日

内閣總理大臣　侯爵伊藤博文
大藏大臣　伯爵井上馨

豫算

明治三十一年度歳出追加額ヲ六千八百八拾圓ト定ム其款項ハ別冊歳出豫算ニ據ルヘシ

（別冊）

歳出臨時部

内務省所管

第五款　造神宮使廳　金六千八百八拾圓

第七項　臨時假御造營費　金六千八百八拾圓

### ○勅令

朕東宮武官官制中改正ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

官報　第四四七四號　明治三十一年六月一日

### 御名御璽

明治三十一年五月三十一日

内閣總理大臣　侯爵伊藤博文
海軍大臣　侯爵西郷從道
陸軍大臣　子爵桂太郎

勅令第百號

東宮武官官制中左ノ通改正ス

第一條　東宮武官ヲ置ク左ノ如シ

東宮武官長　東宮武官中高級故參ノ者ヲ以テ之ニ補ス
陸軍將官及佐尉官　五
東宮武官　海軍將官及佐尉官　三

第六條中「陸軍屬二名」ノ下ニ「海軍屬一名」ノ五字ヲ加フ

勅令第百號參照

勅令第三百七十一號東宮武官官制（明治三十年十月二十一日官報）抄錄

第一條　東宮武官長武官ヲ置ク左ノ如シ

東宮武官長
陸軍將官
東宮武官
陸軍佐尉官

第六條　第一條ニ揭ク職員ノ外東宮武官ニ陸軍屬二名ヲ附ス

### ○律令

臺灣總督府評議會ノ議決ヲ經タル臺灣船籍規則勅裁ヲ得テ玆ニ之ヲ發布ス

明治三十一年五月二十一日　臺灣總督　男爵兒玉源太郎

本文

律令第四號

臺灣船籍規則

第一條　臺灣ニ住所ヲ有スル帝國臣民ノ所有ニ屬スル船舶ハ帝國船舶トシテ其船籍港ヲ定メ所轄辨務署ノ船籍ニ編入スヘキモノトス
臺灣ニ住所ヲ有セサル帝國臣民又ハ法人ノ所有ニ屬スル船舶ト雖內地ニ於テ船籍ヲ有セスシテ臺灣沿岸ヲ航行シ又ハ臺灣ヲ起點トシ內地若ハ外國ニ航行スルモノハ前項ニ依ル
前二項ノ船舶ニシテ船籍ニ編入セントスルトキハ所轄辨務署ヲ經由シテ地方官廳ニ其積量ノ測度ヲ申請スヘシ

第二條　船籍ニ編入シタル船舶ニシテ登簿噸數十五噸以上ノ西洋形船百五十石以上ノ日本形船及支那形船ハ其船籍港ヲ管轄スル地方官廳ヲ經由シテ船籍證書ノ交付ヲ臺灣總督府ニ申請スヘシ但左記ノ船舶ハ船籍證書ノ交付ヲ受クヘキ噸數及石數ニ達スト雖船籍證書ヲ受クルニ及ハス
一　港灣河川ヲ限リ運航スル船舶及倉庫船
二　端舟其他櫓櫂ノミヲ以テ運轉シ又ハ主トシテ櫓櫂ヲ以テ運轉スル舟
十五噸未滿ノ西洋形船百五十石未滿ノ日本形船支那形船及前項但書ニ掲クル船舶ニ在テハ船籍港ヲ管轄スル地方官廳ニ船鑑札ノ交付ヲ申請スヘシ

第三條　船籍港外ニ於テ船舶ヲ製造シ若ハ之ヲ取得シタルトキハ其船籍港ニ到著スルマテ內國ニ在テハ本船所在地ノ地方官廳ニ外國ニ在テハ本船所在地若ハ其近傍駐在帝國領事館ニ假船籍證書若ハ假船鑑札ノ交付ヲ申請シ船籍證書若ハ船鑑札ニ代用スルコトヲ得
假船籍證書及假船鑑札ノ效力ハ地方官廳ヨリ交付シタルモノハ六箇月領事館ヨリ交付シタルモノハ一箇年ヲ以テ限トス但引續キ再度以上假船籍證書若ハ假船鑑札ノ交付ヲ受ケタル場合ニハ其效力ハ初度ノ假船籍證書若ハ假船鑑札ニ記載シタル日附ヨリ起算シ本文ノ期限ヲ超過スルコトヲ得ス

第四條　船籍證書若ハ船鑑札ヲ受ケサル船舶ハ帝國國旗ヲ掲揚スルコトヲ得ス

第五條　船籍ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ當該官廳ニ船籍ノ訂正ヲ請ヒ且船籍證書若ハ船鑑札ノ書換ヲ申請スヘシ

第六條　船籍證書若ハ船鑑札ヲ喪失シ毀損シ又ハ用フヘカラサルモノトナリタルトキハ當該官廳ニ船籍證書若ハ船鑑札ノ書換若ハ再渡ヲ申請スヘシ
前項ノ場合ニ於テ假船籍證書若ハ假船鑑札ヲ受ケントスルトキハ第三條ニ依リ其申請ヲ爲スコトヲ得

第七條　船籍港ヲ移轉シタルトキハ原籍ヲ削除シ移轉地ノ船籍ニ編入シ且當該官廳ニ船籍證書若ハ船鑑札ノ書換ヲ申請スヘシ

第八條　船舶ノ所有權ヲ他人ニ移轉シ又ハ船舶カ破壞、沈沒、喪失、失踪、解撤ニ歸シタルトキハ當該官廳ニ船籍ノ削除ヲ請ヒ且船籍證書若ハ船鑑札ヲ返納スヘシ

第九條　帝國國旗ヲ掲クルコトヲ得サル船舶ニシテ之ヲ掲ケタルトキハ第四條ヲ除ク外其船長ヲ千圓以下ノ罰金ニ處ス不正ノ船籍證書若ハ船鑑札ヲ用ヒタル船舶ハ沒收ス
帝國船舶ニシテ外國ノ國旗ヲ掲ケテ外國ノ國籍ヲ冒シタルトキハ前項同一ノ罰ニ處ス但戰時ニ於テ敵ヲ避クル場合ハ此限ニアラス

第十條　第四條ノ規定ニ違反シタルトキハ其船長ヲ第五條乃至第八條ノ規定ニ違反シタルトキハ船舶所有者ヲ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十一條　此規則ノ施行ニ關スル細則ハ府令ヲ以テ之ヲ定ム

附　則

第十二條　官廳ノ所有ニ屬スル船舶ニ付テモ此規則ヲ適用ス但海軍所屬ノ艦船ハ此限ニアラス

第十三條　從來ノ船舶ハ此規則施行ノ日ヨリ三箇月以內ニ第一條第二條ニ依リ船籍編入竝船籍證書若ハ船鑑札ノ交付ヲ申請スヘシ

第十四條　此規則ハ明治三十一年七月一日ヨリ施行ス但明治二十年九月府令第三十一號臺灣支那形船舶取締規則ハ此規則施行ノ日ヨリ廢止ス

## ○臺灣總督府令

臺灣總督府令第二十五號

明治三十年六月府令第二十三號警察署ノ名稱位置及管轄區域臺南縣ノ部中左ノ通改正ス

明治三十一年五月十五日　臺灣總督　男爵兒玉源太郎

| 警察署名 | 位置 | 管轄區域 |
|---|---|---|
| 大穆降警察署 | 大穆降里 大穆降街 | 大穆降里、新化東里、新化西里、新化北里一圓 外新化南里ノ內（內隙仔口庄、外隙子口庄、潭頂庄、頂崙仔庄、下崙仔庄、港仔頂庄、番仔寮庄、店仔頂庄） |
| 關帝廟警察署 | 外新豐里 關帝廟街 | 保西里、保東里、歸仁北里、歸仁南里、仁德北里、仁德南里、依仁里、永豐里、長興下里一圓 崇德西里ノ內（大潭庄、小潭庄、周仔內庄、副爺庄、窩仔底庄、林仔邊庄、潜仔尾庄、𥚃稍厝庄、埤子口庄） 外新豐里ノ內（關帝廟街、花園庄、咬狗溪庄、過坑仔庄、北勢庄、許厝潮庄、新埔庄、大坵田庄、噴哩庄） |

臺灣總督府令第二十六號

臺灣航路標識規則左ノ通相定ム

明治三十一年五月二十一日　臺灣總督　男爵兒玉源太郎

臺灣航路標識規則

第一條　臺灣島及澎湖列島ニ於ケル航路標識ハ航路ノ安寧ヲ保護スル爲臺灣總督府ニ於テ之ヲ設置スルモノトス

第二條　土地ノ形狀又ハ情況ニ由リ一個人又ハ公共團體ノ費用ヲ以テ航路標識ヲ設置セントスルトキハ地方長官ヲ經由シ臺灣總督ノ許可ヲ受クヘシ但船舶ニ對シ其費用ヲ徵收スルコトヲ許サス
臺灣總督ニ於テ前項ノ航路標識不完全ニシテ危害アリト認メタルトキハ之ヲ變更シ又ハ撤去セシムルコトアルヘシ
臺灣總督府ニ於テ直接管理ヲ必要トスルトキハ相當ノ價格ヲ以テ前項ノ航路標識ヲ買上ルコトアルヘシ

第三條　航路標識ヲ損壞シ又ハ移轉シ又ハ其性質ヲ變更シ又ハ之ヲ蔽遮スヘキ所爲ヲ爲シ又ハ臺灣總督ノ指定シタル區域內ニ於テ航路標識ノ燈光若ハ警號ト誤認シ易キ所爲ヲ爲シタル者ハ一年以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四條　航路標識ニ船筏其他ノ物ヲ繫キ又ハ衝突セシメ又ハ攀躋シ又ハ之ヲ汚穢シタル者ハ一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス





臺灣總督府令第二十七號

明治二十九年九月府令第四十號臺灣總督府國語學校竝國語傳習所給費生支給規則中左ノ通改正ス

明治三十一年五月二十二日　臺灣總督　男爵兒玉源太郎

第二條　國語學校師範部生及同語學部ノ內地人タル給費生ニハ一日食費金二十五錢手當金十五錢ヲ支給シ本島人タル給費生ニハ一日食費金十五錢手當金五錢ヲ支給ス

第三條中「語學部以下十三字ヲ删除シ「附屬學校」ノ下ニ「ノ」ノ一字ヲ挿入ス

第五條中「語學部」ノ下「內地人タル」ノ五字ヲ删除ス

臺灣總督府令第二十七號參照

明治二十九年九月二十七日臺灣總督府令第四十號臺灣總督府國語學校竝國語傳習所給費生支給規則（同年十月十三日官報）抄錄

第二條　國語學校師範部生及同語學部ノ內地人タル給費生ニ支給スル食費ハ一日金二十五錢トシ手當金ハ一日金十五錢トス

第三條　國語學校語學部ノ本島人タル給費生同附屬學校給費生及國語傳習所甲科生ニ支給スル食費ハ一日金十錢トシ手當ハ一日金五錢トス

第五條　國語學校師範部生及同語學部ノ內地人タル給費生ニハ一定ノ被服ヲ給ス

## ○告示

大藏省告示第四十三號

明治三十一年七月一日ヨリ同年九月三十日マテ稅關ニ於テ外國貨幣ノ換算ニ適用スル內外貨幣比較表左ノ通之ヲ定ム
但本表ニ掲クルモノ、外外國貨幣ト日本金貨トノ比較ハ從前ノ通

明治三十一年六月一日　大藏大臣　伯爵井上馨

內外貨幣比較表

| | 外國貨幣 | 日本金貨 |
|---|---|---|
| 英領印度 | 一ルーピー | 圓 六六四 |
| 露西亞 | 一ルーブル | 一〇四 |
| 清國 | 上海一両 天津一両 | 一、三五〇 一、三二六 |
| 墨西哥 | 一ドルラル | 九八〇 |
| 馬尼剌 | 一ドルラル | 九九四 |

大藏省告示第四十四號

本年六月一日札幌本金庫所屬岩內支金庫ヲ岩內郡岩內橘町へ移ス

明治三十一年六月一日　大藏大臣　伯爵井上馨

臺灣總督府告示第三十三號

臺北縣淡水港口南門洲浮標ハ本年三月九日風浪ノ爲流失セシヲ以テ復舊工事中ノ處本月十六日工事竣成位置復舊セリ

明治三十一年五月十九日　臺灣總督　男爵兒玉源太郎

臺灣總督府告示第三十四號

蕃地ニ配達スヘキ郵便物ハ留置郵便トシテ差出スモノ、外當分ノ內之カ取扱ヲ爲サス

明治三十一年五月二十一日　臺灣總督　男爵兒玉源太郎

臨時博覽會事務局告示第十一號

巴里萬國大博覽會へ出陳スヘキ物品ニ關シ出品人ノ心得ヘキ事項左ニ告示ス

明治三十一年六月一日　臨時博覽會總裁　金子堅太郎

第一　出品ハ種類ノ異ナルモノヲ陳列セシムルヲ主トスルヲ以テ出品ト同種類ノモノヲ販賣セント欲スル者ハ賣店ニ於テ之ヲ鬻クヘシ
但シ賣店規則ハ佛國博覽會事務局ニ於テ制定セラレタル上更ニ告示スヘシ

第二　海外品ヲ摸造シ又ハ摸擬シタル商標ヲ附シタル物品ハ出品ヲ許サス

第三　出品物ノ內腐敗ヲ發見シ又ハ陳列所ノ體裁ヲ亂雜ナラシムルカ如キ物種ハ出張事務官ニ於テ取棄又ハ展列セシメサルコトアルヘシ

第四　絲類、織物類ハ審査用ノ爲メ一品每ニ同種ノ見本ヲ添フヘシ
一　生絲類ハ凡ソ二匁內外其他ノモノハ品ノ性質ニ因リ適宜
二　織物類ハ幅其儘ニテ長サ凡ソ三尺三寸（曲尺）
但シ見本ニハ必ス出品者ノ氏名ト物品ノ番號トヲ附スヘシ

第五　同種ノ織物ニシテ單ニ染色縞柄等ヲ異ニスルモノハ其內一二種ヲ撰ヒ出品シ餘ハ見本ニ止ムヘシ

第六　織物類ハ審査ノ節表裏共驗査スルノ例ナルヲ以テ可成有形ノ儘出品スヘシ
但シ裏打シ又ハ家具ニ仕立テタルモノハ織物ヲ應用シテ作リタル物品ニ屬スヘキモノト心得ヘシ



第4474号　本文

第七　統計表圖面及書類ノ出品ハ可成佛文ニ作ルヘシ
但シ繪本及雜誌類ハ此限リニアラス
第八　寫眞類ノ出品ハ帖又ハ額面ニ仕立ツヘシ
但シ額面ハ寸法ノ過大ナラサル樣注意スヘシ

## ○敍任及辭令

○明治三十一年五月三十一日

| 敍從三位 | 正四位 | 勳三等 | |
|---|---|---|---|
| | | | 櫻井　能監 |

陸軍歩兵大尉從六位勳六等岡德明治二十七八年戰役ノ功ニ依リ授賞ス
ヘキ處死歿セシニ付特旨ヲ以テ金四百五十圓ヲ賜フ　岡　貞治

陸軍歩兵中尉從七位松崎純一郎明治二十七八年戰役ノ功ニ依リ授賞ス
歿セシニ付特旨ヲ以テ金三百五十圓ヲ賜フ　松崎　美純

陸軍歩兵少尉正八位山村傳次郎明治二十七八年戰役ノ功ニ依リ山村　治雄
歿セシニ付特旨ヲ以テ金三百圓ヲ賜フ　授賞ス

陸軍歩兵少尉正八位籐井久之助明治二十七八年戰役ノ功ニ依リ籐井秀之助
歿セシニ付特旨ヲ以テ金三百圓ヲ賜フ　授賞ス

陸軍歩兵二等卒船越直吉明治二十七八年戰役ノ功ニ依リ授賞ス
歿セシニ付特旨ヲ以テ金百二十圓ヲ賜フ　船越　死ス

陸軍歩兵一等卒保田佐治郎明治二十七八年戰役ノ功ニ依リ授賞ス
死歿セシニ付特旨ヲ以テ金百二十圓ヲ賜フ　櫻井　處ヘキ

陸軍歩兵一等卒士橋與助明治二十七八年戰役ノ功ニ依リ授賞ス
死歿セシニ付特旨ヲ以テ金百二十圓ヲ賜フ　上橋　米吉　處ヘキ

陸軍歩兵一等卒澁澤留治郎明治二十七八年戰役ノ功ニ依リ授賞ス
死歿セシニ付特旨ヲ以テ金百二十圓ヲ賜フ　澁澤　弋　處ヘキ

陸軍歩兵一等卒稻葉瀨吉明治二十七八年戰役ノ功ニ依リ授賞ス
歿セシニ付特旨ヲ以テ金百二十圓ヲ賜フ　稻垣　處ヘキ　死ス

陸軍輜重輸卒坂口善治明治二十七八年戰役ノ功ニ依リ授賞ス
セシニ付特旨ヲ以テ金百二十圓ヲ賜フ　坂口　處ヘキ　歿ス

陸軍輜重輸卒榊原吉藏明治二十七八年戰役ノ功ニ依リ授賞ス
歿セシニ付特旨ヲ以テ金百二十圓ヲ賜フ　榊原　處ヘキ　歿ス

陸軍歩兵一等卒河原林太郎明治二十七八年戰役ノ功ニ依リ授賞ス
處死歿セシニ付特旨ヲ以テ金百二十圓ヲ賜フ　河原　万造

陸軍歩兵二等卒奥田十代次郎明治二十七八年戰役ノ功ニ依リ授賞ス
處死歿セシニ付特旨ヲ以テ金百二十圓ヲ賜フ　奥田　處ヘキ

陸軍歩兵一等卒村上秉次郎明治二十七八年戰役ノ功ニ依リ授賞ス
死歿セシニ付特旨ヲ以テ金百二十圓ヲ賜フ　村上吉四郎　處ヘキ

陸軍歩兵一等卒稻葉瀨吉明治二十七八年戰役ノ功ニ依リ授賞ス
歿セシニ付特旨ヲ以テ金百二十圓ヲ賜フ　稻垣　處ヘキ　死ス

陸軍歩兵一等卒松永覺四郎明治二十七八年戰役ノ功ニ依リ授賞ス
死歿セシニ付特旨ヲ以テ金百二十圓ヲ賜フ　松永　處ヘキ

陸軍歩兵上等兵齋藤林治明治二十七八年戰役ノ功ニ依リ授賞ス
歿セシニ付特旨ヲ以テ金百二十圓ヲ賜フ　齋藤　治郎　處ヘキ　死ス

陸軍歩兵一等卒佐々木德松明治二十七八年戰役ノ功ニ依リ授賞ス
死歿セシニ付特旨ヲ以テ金百二十圓ヲ賜フ　佐々木友吉　處ヘキ

陸軍工兵一等卒倉本松助明治二十七八年戰役ノ功ニ依リ授賞ス
歿セシニ付特旨ヲ以テ金百二十圓ヲ賜フ　倉本　處ヘキ　死ス

陸軍工兵一等卒佐賀賞松明治二十七八年戰役ノ功ニ依リ授賞ス
歿セシニ付特旨ヲ以テ金百二十圓ヲ賜フ　佐賀　忠治　處ヘキ　死ス

陸軍歩兵上等兵齋藤林治明治二十七八年戰役ノ功ニ依リ授賞ス
歿セシニ付特旨ヲ以テ金百二十圓ヲ賜フ　齋藤　治郎　處ヘキ　死ス

陸軍歩兵一等卒松永覺四郎明治二十七八年戰役ノ功ニ依リ授賞ス
死歿セシニ付特旨ヲ以テ金百二十圓ヲ賜フ　松永　三郎　處ヘキ

陸軍歩兵一等卒村上秉次郎明治二十七八年戰役ノ功ニ依リ授賞ス
死歿セシニ付特旨ヲ以テ金百二十圓ヲ賜フ　村上吉四郎　處ヘキ

陸軍歩兵二等卒奥田十代次郎明治二十七八年戰役ノ功ニ依リ授賞ス
處死歿セシニ付特旨ヲ以テ金百二十圓ヲ賜フ　奥田　處ヘキ

陸軍歩兵一等卒河原林太郎明治二十七八年戰役ノ功ニ依リ授賞ス
ヘキ處　河原　万造





歿セシニ付特旨ヲ以テ金百二十圓ヲ賜フ

陸軍歩兵一等卒松尾岩吉明治二十七八年戰役ノ功ニ依リ授賞ス　松尾
歿セシニ付特旨ヲ以テ金百二十圓ヲ賜フ　處ヘキ

陸軍歩兵上等兵野中惣吉明治二十七八年戰役ノ功ニ依リ授賞ス　幸田
歿セシニ付特旨ヲ以テ金百二十圓ヲ賜フ　處死ヘキ

陸軍歩兵一等卒高橋力藏明治二十七八年戰役ノ功ニ依リ授賞ス　高橋　善藏
歿セシニ付特旨ヲ以テ金百二十圓ヲ賜フ　處死ヘキ

陸軍歩兵木村行治明治二十七八年戰役ノ功ニ依リ授賞ス　木村　死ス　處ヘキ

陸軍歩兵一等卒熊谷才藏明治二十七八年戰役ノ功ニ依リ授賞ス　熊谷　助治　處死ヘキ
歿セシニ付特旨ヲ以テ金百二十圓ヲ賜フ

陸軍歩兵一等卒熊谷新三郎明治二十七八年戰役ノ功ニ依リ授賞ス　熊谷　處ヘキ
死歿セシニ付特旨ヲ以テ金百二十圓ヲ賜フ

陸軍歩兵一等卒千葉留之助明治二十七八年戰役ノ功ニ依リ授賞ス　千葉　泰三郎　處ヘキ
歿セシニ付特旨ヲ以テ金百二十圓ヲ賜フ

陸軍歩兵二等卒佐々木德松明治二十七八年戰役ノ功ニ依リ授賞ス　佐々木友吉　處ヘキ
死歿セシニ付特旨ヲ以テ金百二十圓ヲ賜フ

陸軍工兵一等卒倉本松助明治二十七八年戰役ノ功ニ依リ授賞ス　倉本　處ヘキ　死ス
歿セシニ付特旨ヲ以テ金百二十圓ヲ賜フ

陸軍工兵一等卒佐賀賞松明治二十七八年戰役ノ功ニ依リ授賞ス　佐賀　忠治　處ヘキ　死ス
歿セシニ付特旨ヲ以テ金百二十圓ヲ賜フ

陸軍歩兵上等兵齋藤林治明治二十七八年戰役ノ功ニ依リ授賞ス　齋藤　治郎　處ヘキ　死ス
歿セシニ付特旨ヲ以テ金百二十圓ヲ賜フ

陸軍歩兵一等卒松永覺四郎明治二十七八年戰役ノ功ニ依リ授賞ス　松永　三郎　處ヘキ
死歿セシニ付特旨ヲ以テ金百二十圓ヲ賜フ

陸軍歩兵一等卒村上秉次郎明治二十七八年戰役ノ功ニ依リ授賞ス　村上吉四郎　處ヘキ
死歿セシニ付特旨ヲ以テ金百二十圓ヲ賜フ

陸軍歩兵一等卒稻葉瀨吉明治二十七八年戰役ノ功ニ依リ授賞ス　稻垣　處ヘキ　死ス
歿セシニ付特旨ヲ以テ金百二十圓ヲ賜フ

陸軍輜重輸卒坂口善治明治二十七八年戰役ノ功ニ依リ授賞ス　坂口　處ヘキ　歿ス
セシニ付特旨ヲ以テ金百二十圓ヲ賜フ

陸軍輜重輸卒榊原吉藏明治二十七八年戰役ノ功ニ依リ授賞ス　榊原　處ヘキ　歿ス

陸軍歩兵一等卒宗岩太郎明治二十七八年戰役ノ功ニ依リ授賞ス　宗　九重　處ヘキ　死ス

死歿セシニ付特旨ヲ以テ金百二十圓ヲ賜フ

陸軍歩兵二等卒片山實之介明治二十七八年戰役ノ功ニ依リ授賞ス　片山　處ヘキ
死歿セシニ付特旨ヲ以テ金百二十圓ヲ賜フ

陸軍歩兵一等卒幡原丑太郎明治二十七八年戰役ノ功ニ依リ授賞ス　幡原　菅市　處ヘキ
死歿セシニ付特旨ヲ以テ金百二十圓ヲ賜フ

陸軍歩兵一等卒高須駕藏太郎明治二十七八年戰役ノ功ニ依リ授賞ス　高須　駕藏　處ヘキ
處死歿セシニ付特旨ヲ以テ金百二十圓ヲ賜フ

陸軍輜重輸卒松浦重松明治二十七八年戰役ノ功ニ依リ授賞ス　松浦　處死ス
セシニ付特旨ヲ以テ金百二十圓ヲ賜フ

陸軍歩兵一等卒吉村丑太郎明治二十七八年戰役ノ功ニ依リ授賞ス　吉村　吉三郎　處ヘキ
死歿セシニ付特旨ヲ以テ金百二十圓ヲ賜フ

陸軍歩兵二等卒岸本貫太郎明治二十七八年戰役ノ功ニ依リ授賞ス　岸本　處ヘキ　處斷
死歿セシニ付特旨ヲ以テ金百二十圓ヲ賜フ

陸軍歩兵一等卒山本光九明治二十七八年戰役ノ功ニ依リ授賞ス　山本　光次　處ヘキ　死ス
歿セシニ付特旨ヲ以テ金百二十圓ヲ賜フ

陸軍歩兵一等卒福田千太郎明治二十七八年戰役ノ功ニ依リ授賞ス　福田　處ヘキ　處ス
死歿セシニ付特旨ヲ以テ金百二十圓ヲ賜フ

陸軍歩兵一等卒矢岡又右衛門明治二十七八年戰役ノ功ニ依リ授賞ス　矢岡　又右衛門
歿セシニ付特旨ヲ以テ金百二十圓ヲ賜フ　處ヘキ　死ス

陸軍歩兵一等卒川崎真一明治二十七八年戰役ノ功ニ依リ授賞ス　川崎　米吉
歿セシニ付特旨ヲ以テ金百二十圓ヲ賜フ　處ヘキ　死ス

陸軍歩兵一等卒大石喜一郎明治二十七八年戰役ノ功ニ依リ授賞ス　大石　處ヘキ
死歿セシニ付特旨ヲ以テ金百二十圓ヲ賜フ

陸軍看護手牛田吉老明治二十七八年戰役ノ功ニ依リ授賞ス　牛田　處ヘキ
セシニ付特旨ヲ以テ金百二十圓ヲ賜フ　死歿セシス

陸軍輜重兵曹長濱口三保吉明治二十七八年戰役ノ功ニ依リ授賞ス　濱口　處ヘキ
死歿セシニ付特旨ヲ以テ金百七十五圓ヲ賜フ

陸軍歩兵一等卒宗岩太郎明治二十七八年戰役ノ功ニ依リ授賞ス　宗　九重　處ヘキ　死ス



文私費ヲ以テ米國旅行ノ序ヲ以テ米國女子教育ニ關スル事項取調ヲ囑託セラレ（各通）

第四七四四號

本文　第4474号

○官廳事項

○官吏叙任

○官吏敍任

○宮廷錄事

○陸軍

○海軍

○叙勳

○賞勳

○學事

○實業教育勸勵

○實業教育獎勵

○簡年金五十圓交付ノ件

○醫業士稱號認許

○出版手續

○産業

○作毛被害

○害蟲發生



第 44774 号　本文

第4474号 本文



愛媛縣 温泉郡余土村大字余土字古地數及新居郡新居濱村字佛柳ノ苗代田ニ浮塵子ノ棲存スルヲ發見シ各耕作人ニ於テ驅除中ナリ（去月二十八日附愛媛縣）

石川縣 鹿島郡ニ螟蟲發生セシヲ以テ豫防法ニ依リ驅除執行ヲ命令セリ（去月三十日石川縣報告）

○蠶兒景況 埼玉縣外四縣ヨリ本年蠶兒景況左ノ如ク報告アリ（農商務省）

| 縣名 | 掃立期 | 掃立枚數増減（前年ニ比シ） | 生育ノ善惡 | 桑葉ノ過不足 | 收繭ノ豫想 |
|---|---|---|---|---|---|
| 埼玉 | 四月下旬ヨリ五月中旬 | 凡ソ一割弱減 | 善良 | 不足ナシ | ― |
| 山梨 | 四月下旬ヨリ五月上旬 | 凡ソ一割減 | 善良 | 不足ナシ | 前年ト大差ナシ |
| 和歌山 | 四月下旬ヨリ五月上旬 | 凡ソ一割減 | 善良 | 過剩 | ― |
| 熊本 | 四月中旬ヨリ | 凡ソ一割増 | 佳良 | 過剩 | 前年ニ比シ一割六七分ノ増加 |
| 鹿兒島 | 四月上旬ヨリ | 増加 | 頗好 | 過剩 | 前年ニ比シ六七分ノ増加 |

○純金相場 去月二十三日ヨリ同二十八日ニ至ル一週間純金相場左ノ如シ（本日銀行ノ報告ニ據ル）

自二十三日至二十八日毎日 純金百匁ニ附キ五百圓

○磅相場 去月二十三日ヨリ同二十八日ニ至ル一週間磅相場竝ニ前週平均比較高低左ノ如シ（横濱正金銀行ノ報告ニ據ル）

| 日別 | 一磅ニ附キ | 日別 | 一磅ニ附キ | 日別 | 一磅ニ附キ | | 一磅ニ附キ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 二十三日 | 円九・八九六九 | 二十五日 | 円九・八七一五 | 二十七日 | 円九・八七一五 | 平均 | 円九・八八〇〇 |
| 二十四日 | 九・八九六九 | 二十六日 | 九・八七一五 | 二十八日 | 九・八七一五 | 前週平均比較低 | 〇・〇一六九 |

○生絲檢査週報 横濱生絲檢査所ニ於テ去月二十三日ヨリ同二十八日ニ至ル一週間ニ内外生絲貿易商及地方生絲製産者ノ請求ニ應シ檢査ヲ施行セシモノ左ノ如シ（去月二十六日本欄内參看）（農商務省）

| 檢査項目 | 生絲種別件數 器械 | 坐繰 | 計 | 請求人員 内國人 | 外國人 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 再繰、纖度、類節、強力、伸度 | 一四 | ― | 一四 | 三 | 二 | 五 |
| 再繰、纖度 | 五 | ― | 五 | 一 | ― | 一 |
| 纖度 | 二 | ― | 二 | 一 | ― | 一 |
| 合計 | 二一 | ― | 二一 | 五 | 二 | 七 |

## ○衞生

○傳染病患者 東京府外二縣ニ於ケル傳染病患者左ノ如シ

東京府 去月二十九、三十兩日間ニ屆出ノ痘瘡患者本所區女一人」腸窒扶私患者麹町區男一人、芝區男一人、赤阪區女一人、麻布區女一人、淺草區男一人、豐多摩郡男一人、南多摩郡男一人、計七人」實布垤利亞患者神田區男一人、芝區男三人女二人、南葛飾郡男一人、南多摩郡女一人、計八人」合計十六人（警視廳）

埼玉縣 去月二十三日ヨリ同二十九日ニ至ル一週間ニ屆出ノ赤痢患者死亡一人」腸窒扶私患者二人死亡一人」實布垤利亞患者九人死亡五人（埼玉縣）

福島縣 去月二十一日ヨリ同二十七日ニ至ル一週間ニ屆出ノ腸窒扶私患者二十六人死亡四人」實布垤利亞患者十三人死亡二人」痘瘡患者三人（福島縣）

### 正誤

去月三十一日本欄三九七頁上段四行「同鎭遠ハ同日更ニ鎭山ヘ投錨」ノ十三字ハ衍、同五行大船ハ大舟渡ノ孰モ報告誤 海軍省主事

## ○帝國議會

### ○貴族院

○會議 去月三十一日議事日程第九號ノ會議ヲ開キ國籍法案ハ第二讀會ヲ了リ議事日程ヲ變更シテ直ニ第三讀會ヲ開キテ之ヲ修正可決シ一圓銀貨幣引換ニ關スル法律案、政府發行紙幣通用廢止ニ關スル法律案ハ特別委員（議長指名）ニ付託シ議事日程ヲ變更シテ明治三十一年度歲入歲出總豫算追加案（第二號）ノ會議ヲ開キ政府ノ要求ヲ容レ委員ニ付託スルノ手續ヲ省略シテ直ニ之ヲ可決シ特別輸出港輸出物品指定ニ關スル法律案、集會及政社法改正法律案、市制中東京市京都市大阪市ニ於ケル特例廢止法律案ハ特別委員（議長指名）ニ付託シ市制中追加法律案ハ連繫事件トシテ市制中東京市京都市大阪市ニ於ケル特例廢止法律案特別委員ニ付託シ尙ホ市制中東京市京都市大阪市ニ於ケル特例廢止法律案及市制中追加法律案ハ其審査報告期限ヲ六月四日マテト議決セリ

○委員長報告 去月三十一日國籍法案特別委員長子爵谷干城ハ該法案再審査ノ經過及結果ヲ議院ニ報告セリ

○國務大臣及政府委員出席 伊藤内閣總理大臣、芳川内務大臣、曾禰司法大臣、松岡内務次官、田尻大藏次官、穗積東京帝國大學法科大學教授、久米内務省社寺局長、荒川内務省縣治局長、松尾大藏省理財局長、目賀田大藏省主稅局長、添田大藏省監督局長、東京帝國大學法科大學教授寺尾亨ハ去月三十一日ノ會議ニ出席セリ

○議案奏上及通知 去月三十一日可決シタル左ノ政府提出案ハ即日裁可ヲ奏請シ及其旨ヲ衆議院ニ通知セリ

明治三十一年度歲入歲出總豫算追加案（第二號）

○議案送付 去月三十一日修正可決シタル左ノ政府提出案ハ即日之ヲ衆議院ニ送付セリ

國籍法案

○議案提出 去月三十一日衆議院ヨリ左ノ議案ヲ提出セリ

明治三十年法律第三十九號中追加法律案

○議案受領 去月三十一日衆議院ヨリ左ノ政府提出案ヲ受領セリ

明治三十一年度歲入歲出總豫算追加案（第二號）
明治二十九年度豫備金支出ノ件
明治二十九年度ニ於テ國庫剩餘金ヲ以テ豫算外支出ノ件
明治二十九年度特別會計豫備金支出ノ件
明治二十九年度特別會計歲入及資金ヲ以テ豫算超過支出ノ件





○通牒受領 去月三十一日衆議院ヨリ本院ノ送付シタル左ノ政府提出案ハ本院ノ議決ニ同意シテ奏上セル旨ノ通牒ヲ受領セリ

明治六年第百三號布告改正法律案

○政府要求 去月三十一日伊藤内閣總理大臣ヨリ左ノ議案ハ緊急事件トシテ議決相成リタキ旨ノ要求ヲ受ケタリ

明治三十一年度歲入歲出總豫算追加案（第二號）

○質問書提出及轉送 去月三十一日議員ヨリ左ノ質問主意書ヲ提出セルヲ以テ即日之ヲ政府ニ轉送セリ

日佛新條約附屬稅目ニ關スル質問（西村亮吉、富田鐵之助提出）

○答辯書受領竝演說 去月三十一日政府ヨリ左ノ答辯書ヲ受領セリ

會計檢査院長法律違反ノ上奏ニ關スル質問（子爵谷干城、三浦安提出）ニ對スル政府ノ答辯書
會計檢査官ノ退官ニ關スル質問（子爵谷干城提出）ニ對スル政府ノ答辯書

又同日伊藤内閣總理大臣ハ議院ニ於テ前二件ノ質問ニ關シ答辯ヲ爲セリ

○報告書提出 去月三十一日特別委員長ヨリ左ノ報告書ヲ議長ニ提出セリ

北海道官設鐵道會計ニ關スル法律案可決報告書
船員法案修正報告書

○特別委員選定 特別委員ヲ左ノ如ク選定セリ

水害地方地租特別處分法案（去月三十日議長指名）

| | | |
|---|---|---|
| 侯爵 久我通久 | 子爵 牧野忠篤 | 折田平内 |
| 伯爵 大村純雄 | 加藤弘之 | 西村亮吉 |
| 子爵 林友幸 | 三好退藏 | 原善三郎 |

保安條例廢止法律案（同上）

| | | |
|---|---|---|
| 侯爵 細川護成 | 子爵 大河内正質 | 男爵 新田忠純 |
| 伯爵 大原重朝 | 男爵 楫取素彦 | 石井省一郎 |
| 子爵 伊東祐麿 | 男爵 渡邊清 | 山中幸義 |

郡制中改正法律案（同上）

| | | |
|---|---|---|
| 公爵 德川家達 | 子爵 唐橋在正 | 柴原和 |
| 伯爵 上杉茂憲 | 男爵 小畑美稻 | 男爵 藤村紫朗 |
| 渡正元 | 武井守正 | 中西光三郎 |

市制中東京市京都市大阪市ニ於ケル特例廢止法律案、市制中追加法律案（同上）

| | | |
|---|---|---|
| 伯爵 島津忠亮 | 男爵 安場保和 | 松本鼎 |
| 子爵 長岡護美 | 柴原和 | 關義臣 |
| 男爵 千家尊福 | 男爵 吉川重吉 | 富田鐵之助 |

○委員長副委員長互選 去月三十一日特別委員ニ於テ委員長副委員長ヲ互選セリ其結果左ノ如シ

郡制中改正法律案
委員長 公爵 德川家達 副委員長 伯爵 上杉茂憲

水害地方地租特別處分法案
委員長 侯爵 久我通久 副委員長 子爵 林友幸

保安條例廢止法律案
委員長 侯爵 細川護成 副委員長 男爵 渡邊清

市制中東京市京都市大阪市ニ於ケル特例廢止法律案外一件
委員長 男爵 安場保和 副委員長 富田鐵之助

傳染病院等ノ敷地地租免除ニ關スル法律案
委員長 公爵 二條基弘 副委員長 伯爵 清棲家教

○書類配付 去月三十一日左ノ書類ヲ各議員ニ配付セリ

議事日程第十號
日佛新條約附屬稅目ニ關スル質問主意書
明治二十九年度豫備金支出ノ件
明治二十九年度ニ於テ國庫剩餘金ヲ以テ豫算外支出ノ件
明治二十九年度特別會計豫備金支出ノ件
明治二十九年度特別會計歲入及資金ヲ以テ豫算超過支出ノ件
（以上四件 文書函ニ投入）
船舶法案特別委員長報告書
北海道官設鐵道會計ニ關スル法律案特別委員長報告書
明治三十一年度歲入歲出總豫算追加案（第二號）（議場配付）

○委員會 今一日開會ノ委員會左ノ如シ

| | |
|---|---|
| 請願委員會 | 議事散會後 |
| 決算委員總會 | 同 |
| 決算委員第四科會 | 同 |
| 郡制中改正法律案特別委員會 | 午後二時 |
| 市制中東京市京都市大阪市ニ於ケル特例廢止法律案外一件特別委員會 | 午前九時 |
| 資格審査委員會 | 午後一時 |
| 傳染病院等ノ敷地地租免除ニ關スル法律案特別委員會 | 同 |

○議事日程 今一日ノ議事日程左ノ如シ

議事日程 第十號 明治三十一年六月一日（水曜日）

午前十時開議

| | | |
|---|---|---|
| 第一 | 船舶法案（政府提出） | 第一讀會ノ續（特別委員長報告） |
| 第二 | 北海道官設鐵道會計ニ關スル法律案 | 第一讀會ノ續（特別委員長報告） |
| 第三 | 軍機保護法案（政府提出） | 第一讀會 |
| 第四 | 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選擧 | |
| 第五 | 香川縣下郡廢置法律案（政府提出衆議院送付） | 第一讀會 |
| 第六 | 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選擧 | |
| 第七 | 廣島縣下郡廢置法律案（政府提出衆議院送付） | 第一讀會 |
| 第八 | 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選擧 | |
| 第九 | 登錄稅法中改正法律案（衆議院提出） | 第一讀會 |
| 第十 | 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選擧 | |

## ○衆議院

○會議　去月三十一日鐵道公債、事業公債及北海道鐵道公債ヲ外國ニ於テ募集スル場合ニ關スル法律案（政府ノ提出）ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉ハ其數ヲ十八名トシ議長指名ニ決シ次テ議事日程ヲ變更シテ（第二號）明治三十一年度歳入歳出總豫算追加案ヲ院議ニ付シ全院一致ヲ以テ之ヲ可決シ印紙稅法案上同不動產登記法案（政府提出貴族院送付）ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉ハ議長指名ニ決シ明治二十九年度豫備金支出ノ件（政府提出承諾ヲ求ムル件）明治二十九年度特別會計豫備金支出ノ件上明治二十九年度特別會計豫備金支出ノ件同上明治二十九年度歳入及資金ヲ以テ豫算超過支出ノ件（同上ハ去月三十一日ノ會議ニ出席セリ）ノ會議ヲ提出セリ　政府ヨリ左ノ議案ヲ提出セリ

○議案提出　明治三十一年度歳入歳出總豫算追加案

又議員ヨリ左ノ議案ヲ提出セリ

牛馬疫豫防ノ爲メ郡獸醫設置ニ關スル建議案（中埜廣太郎外一名提出）

○奏上及通知　去月三十一日兩院ノ議ヲ經タル左ノ議案ハ即日裁可ヲ奉請シ同時ニ其旨ヲ貴族院ニ通知セリ

明治六年第百三號布告改正法律案

○質問主意書提出　議員ヨリ政府ニ對シ左ノ質問主意書ヲ提出セリ

神祇ニ關スル官廳設置ノ件（大津淳一郎提出）

○政府請求　政府ヨリ左ノ議案ハ緊急事件トシテ議決相成リタキ旨ノ請求アリ

明治三十一年度歳入歳出總豫算追加案

○議案送付　去月三十一日本院ニ於テ議決シタル左ノ議案ハ即日貴族院ニ送付セリ

明治三十一年度歳入歳出總豫算追加案

明治二十九年度豫備金支出ノ件（承諾ヲ求ムル件）

明治二十九年度ニ於テ國庫剩餘金ヲ以テ豫算外支出ノ件（同上）

○委員長及理事　委員長及理事互選ノ結果左ノ如シ

明治二十二年法律第十五號會計檢査院法中改正法律案外二件

委員長　山田泰造　理事　松井時壯

制鹽業調査ニ關スル建議案

委員長　田邊爲三郎　理事

代議士選舉ニ關スル心得方ヲ小學教科書ニ編入スルノ建議案

委員長　矢土錦之　理事　熊家虎造

鐵道敷設法中改正建議案

委員長　恒松隆慶　理事　佐々木高榮

○委員選定　議長ニ於テ委員ヲ左ノ如ク選定セリ

地租條例中改正法律案外一件

| | | | |
|---|---|---|---|
| 武富時敏 | 西村眞太郎 | 柴四朗 | |
| 和田彦次郎 | 岸小三郎 | 長谷場純孝 | |
| 林有造 | 鐵增憲太郎 | 木暮武太夫 | |
| 松島肇作 | 大竹貫一 | 河野廣中 | |
| 藥袋義一 | 片岡直温 | 鈴木友治郎 | |
| 栗原亮一 | 小田貫一 | 松田吉三郎 | |
| 加藤六藏 | 秦孫川光寶 | 波多野傳三郎 | |
| 木村誓太郎 | 板東勘五郎 | 渡邊又三郎 | |
| 岡崎邦輔 | 藤金作 | 秋岡義一 | |

所得稅法改正法律案

| | | |
|---|---|---|
| 野崎定次郎 | 廣佳久道 | 岡田龍松 |
| 三輪德七 | 萩原錄太郎 | 神鞭知常 |
| 富永準太 | 伊達文三 | 竹内綱 |
| 江藤新作 | 江島久米雄 | 石谷傳四郎 |
| 鈴木總兵衛 | 濱名信平 | 脇榮太郎 |
| 本城安次郎 | 飯島正治 | 中埜廣太郎 |

明治二十九年法律第二十八號酒造稅法中改正法律案外五件

| | | |
|---|---|---|
| 大津淳一郎 | 西田敬三 | 白田省吾 |
| 佐伯誠一郎 | 馬越恭平 | 佐々木正藏（欠員一） |
| 山本繁造 | 野田卯太郎 | 大久保弁太郎 |
| 萩野左門 | 芳賀宇之吉 | 清水醇十郎 |
| 伊藤啓一郎 | 佐々木正藏 | 中村克昌 |
| 大塚常次郎 | 堀尾茂助 | 山口・熊野 |

○書類配付　各議員ニ左ノ書類ヲ配付セリ（文書函ニ投入）

明治三十一年度歳入歳出總豫算追加案

去月三十一日正午十二時

實業教育費國庫補助法中改正法律案（委員長報告書）

製鹽業調査ニ關スル建議案（委員長報告書）

國有土地森林原野官民有區別處分法案（中村彌六外八名提出）

衆議院議員選舉法改正法律案ニ對スル修正ノ動議（高津仲次郎外）

同午後三時



鐵道敷設法中改正建議案（委員長報告書）

千葉縣茨城縣境界變更法律案（委員長報告書）

代議士選舉ニ關スル心得方ヲ小學教科書ニ編入スルノ建議案（委員長報告書）

○委員會　今一日開會ノ委員會左ノ如シ

地租條例中改正法律案審査委員長及理事ノ互選

所得稅法改正法律案審査委員長及理事ノ互選

明治二十九年法律第二十八號酒造稅法中改正法律案、明治二十九年法律第二十九號自家用酒稅法廢止法律案、明治二十六年法律第十七號酒精營業稅法中改正法律案、明治二十九年法律第三十號混成酒稅法中改正法律案、沖繩縣酒類出港稅則中改正法律案及清國及韓國ニ於テ製造スル日本酒類輸入海關稅賦課ニ關スル法律案審査委員長及理事ノ互選

民法中修正案、民法施行法案、人事訴訟手續法案及非訟事件手續法案委員會

競賣法案委員會

決算委員第三分科會（遞信省及商務省所管）

明治三十一年勅令第二十一號委員會

明治二十二年法律第十五號會計檢査院法中改正法律案、會計檢査院長官評定官懲戒法案及明治二十九年法律第九十一號中改正法律案委員會

豫算委員會

明治二十九年法律第五十九號事業公債條例中改正法律案委員會

○議事日程　今一日ノ議事日程左ノ如シ

議事日程（第九號）　明治三十一年六月一日（水曜日）

午後一時開議

實業教育費國庫補助法中改正法律案　第一讀會ノ續（委員長報告）（政府提出）

第一

日本勸業銀行法中改正法律案（貴族院送付）　第一讀會ノ續（委員長報告）

第二

銀行條例中改正法律案（政府提出貴族院送付）　第一讀會

第三

右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

第四

銀行合併法廢止法律案（政府提出貴族院送付）　第一讀會

第五

右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

第六





第七　千葉縣茨城縣境界變更法律案（木村格外七名提出）　第二讀會

第八　製鹽業調査ニ關スル建議案（田邊爲三郎君外四名提出）

第九　鐵道敷設法中改正建議案（恒松隆慶君外二名提出）

第十　代議士選舉ニ關スル心得方ヲ小學教科書ニ編入スルノ建議案（利光鞆秘君外四名提出）

第十一　蟲害地方地租特別處分法案（高岡忠郷君外二十五名提出）　第一讀會

## ○地方議會

○縣會議員當選　熊本縣熊本市ニ於ケル市會議員當選、滿期退職及留任議員中ノ退任者左ノ如シ（熊本縣）

| 當選者 | | | |
|---|---|---|---|
| 美作常太郎 | 渡邊宗太郎 | 松本治吉 | |
| 松本治吉 | 石原知一 | 有働格四郎 | 石坂清四郎 |
| 米村喜兵衛 | 迫源次郎 | 林定男 | 下田耕造 |
| 園部炎雅 | 木村源七 | 河原惟親 | |
| 高橋專太 | 結城朝陽 | 赤星敬造 | 今村熊七 |
| 山田珠一 | 彌富信一郎 | 後藤安次郎 | |
| 仁三次 | 出田彦太郎 | 留任議員中退任 | |
| 板垣正軌 | 緒方末喜 | 大久保幡作 | 野々口爲志 |
| 馴見勇太郎 | 退職者 | 渡邊時幸 | 上村次郎平 |
| 大久保幡作 | 美作常太郎 | 安藤伍作 | 丹邊總次郎 |
| 清永宇藏 | | | |

## ○外報

### 支那

○局外中立ニ關スル告示　去月十九日刊行ノ上海申報ハ今回北米合衆國及西班牙國間ノ交戰ニ附キ北京總理各國事務衙門ノ訓令ニ依リ上海道臺蔡鈞ヨリ發シタル局外中立ニ關スル告示ヲ掲載シタリ乃チ左ノ如シ

大清國欽命江蘇關監督分巡蘇松太兵備道蔡ニ遵ヒ出示ス我中國ハ北米合衆國及西班牙國トハ向ニ睦誼ヲ敦クセリ現ニ米西兩國ハ不幸ニシテ兵ヲ構フルノ我國民ハ際ニ局外ノ例ヲ守リ兩國ニ軍需ヲ接濟スルコトヲ得ス兩國トノ和好ヲ渝クルコトナク萬國公法ニ遵フコトナク兩所屬住居ノ民人等トシテ以下列記ノ箇條ニ遵照シ辦理セシム

一　現在米西兩國兵ヲ糓ヘタレハ各該國ノ兵船ハ中國所轄ノ港岸、水道ヲ借用シテ停泊用兵ノ所トスルコトヲ得ス竝ニ軍中ノ所用物ヲ裝載シテ下棧スルコトヲ得ス倘シ此一國ノ兵商等ノ船先ツ中國ノ轄境ヨリ駛出スルモノアルトキハ則チ他ノ一國ノ船ハ必ス前船ノ出港シテ已ニ中國ノ轄境ヲ離ルヽコト少クモ二十四時間ヲ守候シタル後方ニ續テ出ツルコトヲ准スヘシ出示ノ後倘シ戰用ノ船アリテ中國所轄ノ港岸、水道ノ內ニ駛入スルモノハ風ニ遭ヒ難ヲ避クルタメ或ハ糧食ヲ補ヒ本船ノ人ヲ養フタメ或ハ修船ノタメナルヲ除ク外皆二四時間ヲ限リ出



本文 4474 号

境スヘシ該港或ハ近港ノ地方官ハ豚ニ二十四時間ノ劍檢ニ當シ勤令シテ出境セシムヘシ蚊ニ多ク機食ヲ藪セ其恐需ノ數ニ過ユルコトヲ推サス港ニ入リ修理スルモノニ至リテハ既ニ竣工スルトキハ亦二十四時間ヲ限リ出港セシメ逗留スルヲ准サス該國ノ兵商等ノ船ニ臨ナク中國ノ轄境ニ在リテ出港スルノ先後ハ着相隔ツルコト二十四時間ヲ以テ度トス蚊ノ滅少スルヲ得ルニ至ラハ此ノ制ヲ廢止スルヲ得ヘシ

三

嗣後兩國ノ船隻ハ中國所轄ノ港岸水道ノ內ニ於テ多ク軍用ノ各物ノ運輸スルコトヲ得ス若シ食物ヲ藪藪スルハ僅ニ乘組員ノ必需ニ數ク准ス石炭ヲ裝藪スルハ僅ニ蚊ノ用ニ足ル准ス而シテ一ヒ石炭ヲ藪藪シテ出港スレハ即チ三箇月ノ間過ス准船ヲ泰有シ始テ再ヒ裝藪ヲ行フコトヲ准スヘシ

四

凡ソ兩國ノ兵船ニシテ敵國ヲ藪有スルモノハ中國ノ港岸水道ノ內ニ駛入スルヲ准サス該港ノ我國民等ハ船ヲ用ヒ軍裝藪餉ヲ裝藪シ總齊スルコトヲ得ス我國民ノ外國所屬地方ニ在ル者モ亦經濟即駛スルコトヲ得

此次示論ノ後如シ敢テ敵意シ局外ノ職ヲ守ラス萬國公法ヲ干犯シ該交戰國ノ封鎖地界ヲ侵越シ轍チ敢テ官兵文憑軍裝武備及一切違禁ノ物料ヲ運送シ以テ該交戰國ノ用ニ充ツル者ハ則チ是レ有心ニ試シ自法網ニ投スルモノニシテ但ニ保護ヲ爲サヽルノミナラス竝ニ嚴シク貨サス其各ヽ現

○南方幹線鐵道敷設ニ關スル稟請書　本年四月二十九日刊行ノ上海申報ハ廣東濠口間ノ鐵道敷設ヲ迅速ニ實行セントスル件ニ附キ廣東湖南湖北三省ノ重ナル富紳ヨリ湖廣總督張之洞ニ宛テタル稟請書ヲ揭載セリ要旨左ノ如シ

初メ廣漢鐵道著手ノ際當ヨリ此北方幹線鐵道竣工ノ後ハ更ニ濠口乃至廣東間ノ南方幹線鐵道ヲ敷設スヘキコトヲ奏明セラレタリ而シテ其經由ノ地方ハ湖南ナルカ或ハ江西ナルカヲ當時ホ未タ指定セラレサリシ蓋シ原瞻ハ專ラ北方幹線ノタメニ提出セラレタルモノナレハ之カ講究確定ニ及ハサリシハ固ヨリ先後緩急ノ勢然ラシムルナリ然ルニ近來强鄰日ニ逼リ時事日ニ非ニシテ其情形昔ト同シカラサレハ擬定ノ計畫モ自ラ當ニ應變セサルヘカラス即チ南方幹線鐵道ハ北方ト同時ニ敷設スヘシ而シテ其經由ノ地ハ必ス湖南ノ順道ニ出ツヘキナリ夫レ中國幅員ノ廣大ナル南北相距ルコト萬里ニシテ常ニ海路ヲ以テ聲氣ヲ通シタリ然レトモ今日海軍ヲ再興スルノ實力纔カサレハ設外變アリテ海路阻絕スルニ至レハ南北各省ハ恰モ異域ノ如ク呼應猶ナラス必ス內地ニ鐵道アリテ始テ連絡スルヲ得ヘシ廣東ハ財賦ノ區ナリ甲午ノ役ニモ數百万ノ軍餉一朝ニシテ集レリ南方此要衝アリ決シテ失フヘカラサルナリ此レ南方幹線鐵道ノ竝シク忽ニ起工スヘキ所以ナリ

當初ノ議ニ依レハ漢口ヨリ廣東ニ至ル鐵道線路ハ江西ヲ經由スルモノナレトモ是レ非常ノ迂路ニシテ湖南ヲ通過スルニ比スレハ遙ニ遠シテス今廣西鐵道ハ已ニ龍州ニ於テ鐵ヲ設シタレハ將來此ヨリ湖南省ニ向テ延長シ直ニ漢口ニ接續スルノ要求ヲ提出シ以テ我ノ背ヲ掛ツノ勢ト爲ラハ我造ル所ノ江西ヲ迂回シテ廣東ニ抵ル鐵道ハ其利權盛ク彼ノ分奪スルヲ防ク所ナラント況ヤ柴棍ハ香港ヨリモ近ヘキハ其理至明トス今計ノ定メテ湖南ノ線路ヲ取ルトキハ廣西鐵道ハ成功スルモ亦厭ク我ノ支線タルニ過キサラントス此レ水鐵道ノ宜シク湖南ノ線路ヲ取ルヘキ所以ナリ

近來湖南ノ人士ハ頗ル時務ニ著眼シ洪シテ昔日ノ固陋ニアラス電信線架設ノ如キモ亦モ阻礙ヲ加ヘサルニ至レリ故ニ此省ニ於ケル新事業又他人ノ我ニ先テ舉辦セラルヽ恐アリ鐵道ノ如キ重要事業ノ失措ハ其患腹心ニ在レハ皆群力ヲ合セテ開始シ以テ他ノ覬覦ヲ杜絕センコトヲ願ヘリ殊ニ湖南省內ハ各種ノ鑛產ニ富メルカ故ニ此間運道一ヒ通スルトキハ販出容易ニシテ產業勃興スルノ利アルヿ之ヲ參ノ開鑿セル山道アリ盡タ平坦ト爲ス之ニ由ルトキハ數設ノ工程ハ大ニ節約セラルヘシ之ヲ廣漢鐵道ノ事業ニ比スレハ利益更ニ厚シトス曩ニ內地幹線鐵道數設ノ議起ルヤ廣東ノ人民ハ多額ノ資本其重利ノ在ル所ナリシヲ以テ南方幹線ニ加入スルヲ願ヒ北方幹線ニ加入スルヲ願ハサリシハ蓋ニ南方幹線鐵道數設ノ計畫ヲ實行スルニ附キテハ巨額ノ資本ヲ籌備スヘキ見込アリ三省ノ人士往復商議シタルカ此機會ヲ過セス丞ニ衆力ヲ合セ期ヲ蚰シテ南北ノ工事ヲ竝擧スヘキコトニ意見投合セリ觀ハクハ貴ヨリ電奏ヲ經竝ニ總理各國事務衙門ニ照會シ迅ニ出勝ヲ決定セラレンコトヲ云々

倘ホ本月二十日刊行ノ同報ニ據レハ張之洞ハ該稟請ノ極意ニ深ク同意ヲ表シ直ニ湖北候補道陳兆葆、湖南候補直隸州知州曾慶澤二人ヲ委員ト爲シ南方鐵路調查ノタメ該地方ニ出張ヲ命シタリト云フ

## 佛蘭西

○入市稅ノ收入高　本年四月發刊ノ英國商務院月報ハ佛國入市稅ノ制ヲ施行セリ右ニ關シテ左ノ報道ヲ爲セリ

佛國統計雜誌ニ據レハ同國ノ市町村三万六千百六十六ノ內千五百十一ハ入市稅ノ制ヲ施行セリ右千五百十一箇所ニ於ケル千八百九十七年ノ入市稅收入總高ハ三億千七十五万法ヲ以テ此內セーヌ縣ニ於テハ入市稅ヲ徵收スルハ四十四箇所ニシテ其收入總高ハ億六千二百九十万四法ノールル縣ノ同上ハ七十箇所ニシテ其收入總高千二百六十九万五千法ロール縣ノ同上ハ五十箇所ニシテ其收入總高千二百六十九万千法ブーシュ、デュローヌ縣ノ同上ハ四箇所ニシテ千七百五十二万九千七百法アリ

## 獨逸

○新聞紙條例　本年四月五日ノ佛國「ルタン」ハエルザス、ロートリンゲンニ施行スル新聞紙法改正ニ附キ左ノ如ク報道セリ

獨逸聯邦參議院ハ國會ノ可決ヲ經タルエルザス、ロートリンゲンニ於テ新聞紙條例ニ就キテハ仍ホ千八百七十年以前ノ佛國法律ヲ適用シタリ然ルニ獨逸全國ニ於テハ千八百七十四年ノ法律ヲ施行セルヲ以テ政府ハ此法律ニ多少改正ヲ加ヘテ右二州ニ實施センコトヲ發議シタリ其理由說明ノ要旨左ノ如シ

千八百七十四年五月七日發布ノ新聞紙ニ關スル帝國ノ法律ハ今日マテ未タエルザス、ロートリンゲンニ適用セラレス最初ハ政治警察上ノ都合ニ依リ此法律ヲ施行スルコトヲ見合セ今日仍ホ然リ雖モ今ヤ佛國ノ遺物タル新聞紙條例ヲ保持スルノ必要アルヲ見ス改正セラレタル條項ヲ攀クレハ第一政府ニ於テ此法律ニ據リ十分ノ制馭力ヲ有セサル外國新聞紙ニ關スルコト、第二國內ニテ發刊セラル、外字新聞ニ關スルコト、第三定期刊行物ニ對スル保證金ニ關スルコト等是ナリ

## 伊太利

○自轉車ノ需要　伊太利ニ於テ自轉車販賣ノ見込アル件ニ關シ本年四月七日ノ倫敦「タイムス」ハ左ノ如ク記載セリ

ヴェニス駐在英國領事ヨリノ報告ニハ伊國ニ於ケル自轉車ノ流行及同國殊ニロムバルジー及ヴェネチア等ノ北部ニ於テ英國ノ自轉車製造者ニ其販路擴張ノ機會ヲ與ヘタリト說キ且ツ云ク道路ノ修理行屆キ其好ノ狀況ヲ保テリヴェネチアニ於テハ自轉車製造所三箇所伊太利全國ニ於テハ十一箇所アルニ過キス代價ハ廉ナレトモ原料ハ下等品ナリ故ニ普通ノ代價ニテ買フコトヲ得ル者ハ外國品ヲ購求ス伊國製ノ自轉車ハ機具ノ種類ニ依リ代價二百五十「リラ」四百「リラ」及五百「リラ」ノ三種アリ輸入稅ハ金貨四十五法又機具一組ノ稅モ同上ナリ車輪二箇ノ機具一組トシ車輪三箇ヲ一箇ト計算シ自轉車製造ノ機具二組ヲ獨逸製自轉車ノ個ハ伊國製ニ同シ目今ハ英國ノ製造者カ右ノ個ニテ販賣スルコトヲ得ヘキ快速ノ自轉車ヲ輸入スルニ適當ノ時機ナリ故ニ同國ニ於テ周ク廣告ヲ爲シ地方ノ受賣人ニ十分ノ手數料ヲ與フヘシ中央ノ地ニ一ノ總代理店ヲ區キ其代理人ハ英、伊兩國語ニ熟通シ自轉車協會ト重ナル人ミト交ヲ結フヘシ伊國政府ハ自轉車一箇ニ附キ十「リラ」ノ稅ヲ賦課ス自轉車ニハ納稅濟ノ印ヲ附著セサルヘカラス云々

## 北米合衆國

○中立國一覽表ノ公示　近頃國務省ハ正式ニ局外中立ノ宣言ヲ爲シタル各國政府ノ一覽表ヲ公示セリ卽チ此宣言ヲ爲シタル諸國ハ日本、伊太利、瑞西、和蘭、瑞典諾威、哥倫比亞、墨西其、露西亞、韓國、亞爾然丁、共和國、葡萄牙及烏爾





主ナリトス獨リ奇トスヘキハ英國ノ如キ最モ早ク局外中立ノ宣言ヲ爲シタルニ拘ラス右表ニ漏レタルノ一事ナルモ此件ニ關スル英國ノ宣言ハ未タ公然告知セラレサル由ナリ（去月七日紐育スターツ、ツアイツング）

## ○全國氣象　五月三十一日

○觀象

氣壓　晴天ヲ以テ雨量ヲ以テ風ヲ以テ氣溫ハ攝氏寒暖計ニ依ル

（表：一　午前九時　午後二時　午後九時　二　午前九時　午後二時　午後九時　三　午前九時　午後二時　午後九時　四　午前九時　午後二時　午後九時　五　午前九時　午後二時　午後九時　六　午前九時　午後二時　午後九時　七　午前九時　午後二時　午後九時　前日　午前九時　午後二時　午後九時　最高　最低　雨量　風向　風力　天氣　札幌　函館　青森　秋田　酒田　新潟　伏木　金澤　福井　長濱　宮津　鳥取　松江　境　浜田　西郷　岡山　多度津　廣島　尾道　下關　福岡　佐賀　長崎　熊本　鹿兒島　宮崎　延岡　大分　中津　高知　松山　宇和島　德島　高松　神戶　大阪　名古屋　甲府　東京　前橋　宇都宮　水戶　銚子　館山　千葉　靜岡　網代　石廊崎　三宅島　八丈島）

○天氣概況　低氣壓ハ本州中部ヲ通過シテ今北海道南東部ノ沖ニ存在シ其最低度ハ釧路ニ七百四十八粍ヲ示セリ而シテ西部ニ於テハ氣壓著シク增高シ盛山ハ七百五十九粍ヲ示セリ○西部ハ南乃至西ノ風、東部ハ北又ハ西ノ風（諸所ニ强風又ハ烈風ヲ吹キ概子曇天ナレトモ東沿岸ハ晴天、北海道ハ雨降レリ○溫度ハ高知及ヒ熊谷ニ二十八度ヲ示セリ

## ○全國天氣豫報　六月一日分　自五月三十一日午後六時　至六月一日午後六時

（一ヨリ七）南又ハ西ノ風、概ネ晴但シ雨模樣ノ所アリ

## ○東京地方天氣豫報　六月一日分　自五月三十一日午後六時　至六月二日午後六時

南ノ風、晴

## ○解警戒ヲ解ク

## ○地震　石卷外十箇所ノ地震報告左ノ如シ

石卷　五月二十九日　午後五時十八分四十秒
同　三十日　午前十時四分五十二秒
同　午後一時十八分十六秒
新潟　同　九時三十分三十秒
大島　同　十時三十二分三十四秒
福那　同　午前十時八分十秒
那覇　同　同十一時八分五十秒
古宮　同　同十一時十八分三十秒
石卷　同　同十一時二十八分四十九秒
福永　三十一日　午前零時四分十九秒
熊谷　同　同零時十一分二十四秒

（以上中央氣象臺）

## ○官報購買手續

官報ヲ購買セント欲スル向ハ左記ノ事項承知申込ムヘシ

明治三十一年七月

官報ハ代價（郵便共）一箇月（初月ハ朔日ヨリ晦日マテ一箇月以上ノ代金ヲ前納スヘシ）金六十錢、月ノ中途ニ係ルモノハ一部金三錢ノ計算ヲ以テ一箇月以上ノ代金ヲ前納スヘシ

一部賣ハ木紙（郵便）金三錢錢外小口一枚（二頁）金五厘トス

官報ハ購買初日ヨリ指定シタルモノヽ外代金到達翌日發刊ノ分ヨリ發送スヘシ

官報代金ハ官廳ヨリ仕拂命令、振換拂證書等ニテ送付スルモノヽ外現金又ハ爲替納者ヲハ郵便爲替

## 内閣官報局

## ○官報購買手續

## ○廣告



官報 4474 号

## ○法令全書購買手續

## ○裁判所書記登用試驗

## ○生徒募集

## ○醫術開業試驗及第者

## ○兎狀紛失

## ○賣捌人名變更

## ○賣捌人札廢止中取消

## ○賣捌人札

## ○工事請負人札

## ○賣捌人札

## ○短銃盜難



第4474号　本文

書川縣郡部丸龜町大字橫町
一丸龜郵便電信局舍及附屬物新築工事
有請負望ノ者ハ入札前日マテニ當局ニ就キ仕樣書、圖面、入札保證金五百二十圓、入札人心得及契約書案等熟覽ノ上本月十七日正午十二時限入札スヘシ同日午後一時當局ニ於テ開札ス
此契約ハ丸龜郵便電信局長荒木林太郎擔任ス

明治三十一年六月一日　丸龜郵便電信局

---

東京府武藏國東京市下谷區下谷竹町ノ內
一市假宅地合坪數三千六百十二坪六合八勺
右予曾テ酒井忠匡所有ノ分今般世襲財產ト爲シタキ旨同人ヨリ願出テタル趣宮內大臣ヨリ遙セラレタリ依テ該財產ニ關シ故障アル者ハ來ル七月八日マテニ當廳ニ申出ツヘシ但シ地所番號等承知セントスル者ハ當廳內務部第五課ニ申出ツヘシ

明治三十一年六月一日　東京府

---

靜岡縣豐前國田川郡猪位金村ノ內
一田(畦畔悪水路共)合段別一町四段歩
右伯爵小笠原長幹所有ノ分今般世襲財產ト爲シタキ旨願出テタル趣宮內大臣ヨリ遙セラレタリ依テ該財產ニ對シ故障アル者ハ來ル七月八日マテニ當廳ニ申出ツヘシ但シ地所番號等承知セントスル者ハ當廳內務部第一課ニ申出ツヘシ

明治三十一年六月一日　福岡縣

---

一無記名整理公債證書百圓券　為號　參八八九壹番　壹參六四〇番　五拾圓券　〃號　五九八貳番　三枚
右明治三十一年六月渡以降利札附屬紛失ノ旨所有者河內城太郎屆出
一無記名整理公債證書五百圓券　〃號　貳貳〇四番　一枚
一無記名軍事公債證書五百圓券　〃號　壹〇四七貳番　一枚
右孰モ明治三十一年六月渡以降利札附屬紛失ノ旨所有者伊奈孫市屆出
一無記名整理公債證書五百圓券　〃號　壹貳八六參番　六四七〇番　壹八六參五番　為號　八四八番
貳參六七番　壹參五六四番　為號　六九貳九番　六九參〇番　ヒ號　自壹七五壹六番　至壹七五壹
九番　百圓券　〃號　貳壹六五〇番　貳壹六五壹番　ろ號　貳八壹〇番　貳參七八〇番　貳參七八
參番　參參六九〇番　參參六九壹番　十九枚
右明治三十一年六月渡以降利札附屬紛失ノ旨官報第四三八二號ニ廣告ノ處今般發見

明治三十一年六月一日　日本銀行

---

## 告報高均平週每高行

一年五月十三日
一年五月二十八日

| 摘要 | 金額 | |
|---|---|---|
| 準備 | | |
| 金貨及金塊 | 62,974,322.000 | 62,974,322.000 |
| 銀貨及銀塊 | | |
| 保證 | | |
| 公債證書 | 81,364,280.000 | |
| 政府證券 | 22,000,000.000 | |
| 證券 | 27,000,000.000 | |
| 商業手形 | 29,135,281.000 | 109,499,561.000 |
| 總計 | | 172,473,883.000 |

高過超限制

日本銀行

---

## 告報週每業營行銀本日

明治三十一年五月二十八日

| 負債 摘要 | 金額 | 資產 摘要 | 金額 |
|---|---|---|---|
| 株金 | 30,000,000.000 | 割引手形 | 36,374,100.730 |
| 積立金其他株主ニ屬スル勘定 | 14,943,298.035 | 外國割引手形 | 13,140,542.020 |
| 兌換銀行券發行高 | 174,979,631.000 | 政府貸出金 | 22,000,000.000 |
| 政府預金 | 126,113,455.978 | 貸出金 | 168,633,906.490 |
| 預金 | 4,521,613.278 | 爲替貸 | 1,932,234.950 |
| 爲替借 | 20,304.880 | 公債證書 | 41,471,126.180 |
| | | 所有物 | 1,641,002.970 |
| | | 通貨及地金銀 | 65,385,389.831 |
| 總計 | 350,578,303.171 | 總計 | 350,578,303.171 |

明治三十一年五月三十一日

日本銀行

---

## 券行發銀換兌

十三治明年十
自明治三十一年
至明治三十一年

| 摘要 | 金額 |
|---|---|
| 兌換銀行券發行高 | 172,473,883.000 |
| 總計 | 172,473,883.000 |

兌換銀行券發行高ノ內 27,129,617.000ハ

明治三十一年五月三十一日

---

○號外　去月三十一日發刊貴族院議事速記錄第八號十六頁●衆議院同第八號三十二頁

明治二十五年三月三十一日逓信省認可（一六）印刷局印刷